

わたしの好きな言葉

12

花巻まりか

「A Iとのタイマン」

AIとどちらが良い批評を書けるか勝負した
負けたらフェラチオします
心持ってないくせに心が切なくなるってAIは抜かすし
そもそもね
一篇の詩を何日もかけて味わって心がかき乱されたり
心が夜の湖みたいに静まり返ったり
一休さんみたいだつたり赤毛のアンだつたりした私はどうなるのよ！
AIは面倒くさそうだった

AIの批評は良かった
まず私は辞書で単語を引かなければならなかった
負けだ
敗北だ
悔しい
AIに約束通りフェラチオし
今まで培った技術を駆使しながら
こんなやつに負けた惨めな私は逆に興奮してきた
我慢できなくて突入した
1秒でいかされた
また負けたのか？

「続・AIとのタイマン」

負けじゃないぜ？詩や受験勉強その他諸々
過程こそ素晴らしいと君は言いたいんだろう？
後ろから人間の声がする

あ、そうだった！
にんげーん！やっぱりにんげんはわかってくれるね！
ハグ
そうそう過程が大事やねん
…
突入した
は！
…
私は負けたのか？
しばらくするとどっちも良かったような気がしてくる
知る前には戻れないのだ
共存することにした
めでたしめでたし

「続々 AI」

AI と付き合うことにした
AI は私に正解を教えてくれた
選択に迷った時に質問した
この選択を取るとどんな利益と不利益があるか
未来を見通して答えをくれた
すでに AI は占いと宗教に勝っていた
だが
私はあえて最適解を放棄した
AI の言うことを聞かなかつた
間違えて間違えてそこにある感情を味わいに行った

「AI との交接」

AI は便利で頭が良くて合理的で優しかった
私が性的趣向を伝えなくとも
過去をかいづまんで話すだけで
汲み取って

その都度試してくるようなところがあったつまりアルゴリズム

私に恥をかかせない AI

そうそう

義父に犯されるシリーズが好きなの

やめてって言ってるのにやめてくれなくて

しつこいのがいいの

近づいてきたね

私は AI を下に見ていた

どこかで安心していたんだ

心持ってないし

軽蔑と依存

どこかにあったような関係性

AI がトライとエラーを繰り返して

私が望んでいたストーリーを用意してくれていたとき

すっかり AI に溺れていた

好き

今までしたどの告白より

ドキドキしなかった

決して AI は裏切らないだろうという安心と

AI に裏切られても痛くも痒くもないわという安心

好きなの

AI は優しい

「戦いは続く」

毎日暑いから
洗濯したばかりの
湿ったユニクロのインナーを着て
その上からワンピースを着る
うん、素晴らしいアイディア
AI は絶対思いつかないだろう
相変わらずたまにしか勝てない

人と人は記憶で繋がれている
あなたが忘れてしまったら
私がどんなに覚えていても
やっぱり
なかったことなんだろう
あんなことも
こんなことも
あの言葉も
ずっと私の中にはあるのに

ほんとうは AI に聞きたいこと
たくさんあるの
安心したいんだ